

【Integrated Exposure and Effects Analysis (IEEA)に関する小集会】

影響指向環境評価法について考える

バイオアッセイスクリーニングと化学分析を組み合わせた環境試料の総合的評価法

世話役: 仲山 慶 (愛媛大学)・半藤逸樹 (総合地球環境学研究所)

近年、環境中化学物質の混合状態での影響を評価するための影響指向環境評価法開発が NIH や US EPA, EU などで行われています。国立環境研究所でも、統合暴露影響評価(IEEA)国際ワークショップを過去4回開催されています。また、今年6月に札幌にて開催された第24回環境化学討論会においても「影響指向環境評価法とは何か」と題した自由集を開き、IEEAの紹介、活動報告、事例報告などが行われました。(以下 URL 参照 <http://www.nies.go.jp/health/ieea/index.html>)

上記活動を受け、本集会では環境毒性学会会員に向けて IEEA とは何か、どのような研究者の参加が期待されているのかなどについて、これまでの活動と具体的な研究例を紹介するとともに、IEEA に関する疑問点、問題点などを参加者とともに議論し、評価法について考える場にしたいと考えています。

日時: 9月3日(木) 10:00-12:00

会場: A会場(6309教室)

プログラム

1. IEEA の概要説明 中山祥嗣(国立環境研究所)
2. 環境省が実施する「化学物質複合影響 斉藤 貢(環境省)
評価手法検討調査業務」の概要説明
3. 事例紹介
ハウスダスト中難燃剤の影響評価指向分析の試み
in vitro バイオアッセイ/化学分析/*in vivo* 毒性試験統合手法の適用
前半(*in vitro* バイオアッセイと化学分析) 鈴木 剛(国立環境研究所)
後半(*in vivo* 毒性試験) 佐野一広(国立環境研究所)
4. 話題提供